

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地				
北海道ハイテクノロジー専門学校		昭和62年12月4日	塩野 寛		〒061-1396 恵庭市恵み野北2丁目12番1 (電話) 0123-36-8119				
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地				
学校法人産業技術学園		昭和63年1月5日	宮川 藤一郎		〒061-1396 恵庭市恵み野北2丁目12番 (電話) 0123-36-8119				
目的	医療業界の現況は治療の複雑さに伴い専門性の追求とより高度なチームアプローチが必要とされるようになった。また、医療におけるコミュニケーション能力の高さも必要とされている。								
分野	課程名		学科名		専門士	高度専門士			
	医療専門課程		義肢装具士学科		平成6年文部科学大臣 告示84号				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技		
3年	昼間		2785	570	780	1435			
生徒総定員		生徒実員		専任教員数		兼任教員数		総教員数	
90		55		6		51		31	
		人の内数		人の内数		人の内数		人の内数	
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 単位認定: 60点以上の成績				
1年生長期休み	■学年始: 4月12日入学式 ■夏季: 8月4日～8月30日 ■冬季: 12月16日～1月10日 ■学年末: 2月24日～3月31日			卒業・進級 条件	進級条件: 2単位以下の単位未修得及び生理学・解剖学を単位修得する事(1年次) 卒業条件: 必修科目の全てを単位修得する事。 卒業試験に合格する事。				
2年生長期休み	■学年始: 4月1日 ■夏季: 8月7日～8月21日 ■冬季: 12月18日～1月12日 ■学年末: 3月1日～3月31日								
3年生長期休み	■学年始: 3月24日 ■夏季: 7月31日～8月15日 ■冬季: 12月18日～1月9日 ■学年末: 2月19日								
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 保護者を含めた面談及び補習指導・次年度の不安解消のためのアドバイスなどを行う。			課外活動	■課外活動の種類 障がい者フライングディスクボランティアなど ボランティア活動 ■サークル活動: 有				
就職等の 状況	■主な就職先、業界等 義肢装具製作会社 ■就職率 ^{※1} : 91% ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 83.3% ■その他 学科変更などの進路変更 (平成27年度卒業者に関する 平成28年5月1日時点の情報)			主な資格・ 検定等	義肢装具士・障がい者スポーツ指導員初級				
中途退学 の現状	■中途退学者 1名(他4名転科) ■中退率 1.5% 平成27年4月1日時点において、在学者63名(平成27年4月1日入学者を含む) 平成28年3月31日時点において、在学者58名(平成28年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更 留年による。 ■中退防止のための取組 一人一人に向き合ったアドバイスやサポート(面談や補習・進路変更の相談など)を行っている。								
ホームページ	URL: http://www.hht.ac.jp								

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業・業界の求める知識・技術が教育課程に反映されるように業界の動向に関して情報交換を行い、教育課程の改善および改定を定期的実施することを目的とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は理事会のもとに設置されており、委員会の適切な運営を行うこととなっている。また、学校運営においては教務組織規則において委員会を運営する。また、教育課程編成委員会で得られた意見や実習巡回時の意見については、学科内で検討し、学生教育に反映させる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成28年8月30日現在

名前	所属	任期	種別
奥山 恒夫	株式会社 恵庭リサーチ・ビジネスパーク 代表取締役社長	2015.9月～ 2017.8月	①業界団体役員
八木 康之	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 北海道センター所長	2015.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員
西村 浩樹	株式会社ホクドー営業部 部長	2015.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員
前仲 勝実	北海道大学大学院薬学研究院 生体分子機能学研究室 教授	2015.9月～ 2017.8月	②学会・学術機関有識者
菅原 直臣	NPO法人北広島ITネットワーク 理事長	2015.9月～ 2017.8月	①業界団体役員
藤浦 将輝	株式会社ナスカコンピュータ システムエンジニア	2015.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員
前田 元照	札幌市私立幼稚園連合会 会長	2015.9月～ 2017.8月	①業界団体役員
若林 尚子	恵庭市なのはな保育園 園長	2015.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員
清水 敏博	医療法人社団慶心会介護付き有料老人ホーム ラ・デュース恵み野 施設長	2015.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員
石本 良之	一般社団法人 医療秘書教育全国協議会 事務局長	2015.9月～ 2017.8月	①業界団体役員
藤本 尚之	医療法人社団 尾形病院 事務長	2016.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員
足立 晋	医療法人北晨会 恵み野病院 事務長	2015.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員
大橋 由美子	公益社団法人 北海道看護協会 札幌第三支部長	2015.9月～ 2017.8月	①業界団体役員
佐藤 真理	医療法人北晨会 恵み野病院 看護部長	2015.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員
蔵重 勉	特定医療法人 修道会 本日記念病院 看護部長	2015.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員
太田 宗夫	一般社団法人 全国救急救命士教育施設協議会 代表理事	2015.9月～ 2017.8月	②学会・学術機関有識者
高橋 順一郎	医療法人社団 愛心館 理事長	2015.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員
瀧川 裕子	一般社団法人 北海道歯科衛生士会 副会長	2015.9月～ 2017.8月	①業界団体役員
尾島 玲子	医療法人社団 尾島歯科医院 理事	2015.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員
中川 喬	北海道公立大学法人札幌医科大学 名誉教授	2015.9月～ 2017.8月	②学会・学術機関有識者
畑中 孝輔	日本赤十字社 北見赤十字病院 眼科検査課 課長	2015.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員
安田 義幸	株式会社 馬場義肢製作所 代表取締役	2015.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員
柏崎 カネ	有限会社 三愛義肢製作所 代表取締役	2015.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員
相馬 充晴	一般社団法人 日本義肢協会 北海道支部長	2015.9月～ 2017.8月	①業界団体役員
真下 泰	公益社団法人 日本臨床工学技士会 副会長	2015.9月～ 2017.8月	①業界団体役員
佐藤 忠寿	医療法人社団 養生館 苫小牧日翔病院 臨床工学技士 主任	2015.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役員(1企業や関係施設の役員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回 開催

(開催日時)

平成28年2月20日 15:00～17:00 北海道ハイテクノロジー専門学校 第8校舎 824教室

平成28年7月30日 15:00～17:00 北海道ハイテクノロジー専門学校 第8校舎 824教室

平成29年2月 4日 13:00～15:00(予定) 北海道ハイテクノロジー専門学校 第8校舎 824教室

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

コミュニケーションを問題視される意見が多く、積極性の部分にも問題を指摘されている。2年次のコミュニケーションに向けての授業展開を行い自らの発言を行えることと、人の気持ちを考えられる医療人になるべく対応できるようにしていく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

義肢装具士の業務について、より実践的な知識・技術・情報などを直接現役の義肢装具士から学び、卒業後必要となるスキルの向上を図る。学ぶことや人間的な意識の高い人材の育成を行う。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

さまざまな実習や座学から義肢装具士・医療の現場からどのような人材が必要とされているのか、また、どのレベルの製品が実際の医療現場で使用されるのか認識し威容向上を図る。

(3) 具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
装具基本工作技術	装具製作における基礎的な技術及び工具の使用法・材料の特性・使用法などを学ぶ。	西義肢製作所
義肢実習Ⅲ	大腿義足四辺形ソケットの製作から適合までを学ぶ。	野坂義肢製作所
臨床実習Ⅰ	臨床の場での義肢装具士の役割を見学・体験しながら学ぶ。	荒井義肢製作所 テクノブレース他

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

日々変化する義肢装具士の業界や医療現場のニーズを学生にフィードバックするため、最新の状況を収集する。また、教育現場での問題に対処できるべく、学園全体での教育力向上を図る。学生が人間的にも義肢装具士的にも求められる人材としてのスキルを習得することを目指す。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

平成27年6月27・28日 POアカデミー学術大会 2名
 平成27年8月1・2日 日本義肢装具学会研修セミナー 4名 「足底装具」
 平成27年8月29・30日 POアカデミー研修セミナー 2名 「他職種を知る2」
 平成27年11月7・8日 日本義肢装具学会学術大会 2名
 平成28年1月31日 POアカデミー全国セミナー 1名 「最近最新の義肢装具セミナー」
 平成28年3月20日 POアカデミー全国セミナー 2名 「義肢装具に必要な評価学」
 平成28年7月16日・17日 POアカデミー学術大会 3名

② 指導力の修得・向上のための研修等

平成27年12月18日 北海道私立専修学校各種学校教員能力認定員会研修 1名 「職業実践専門課程に係る研修会」
 平成28年3月25日 日本義肢装具教育者連絡協議会 教員研修会 2名 「臨床実習の取り組みについて」
 平成28年5月26日 学内国試総括研修 3名
 平成28年6月28日 JWEB研修 1名 「国家試験対策ツール研修」
 平成28年6月29日 JESC国試対策研修 4名

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

平成28年10月15・16日 日本義肢装具学会学術大会 4名
 平成29年3月 POアカデミー研修セミナー 2名 「他職種を知る3」
 平成29年7月 POアカデミー学術大会 3名
 平成29年10月 日本義肢装具学会 3名

② 指導力の修得・向上のための研修等

平成29年3月 日本義肢装具教育者連絡協議会 教員研修会 2名 「未定」
 平成29年5月 国試総括研修
 平成29年6月 国試対策研修

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校法人産業技術学園が設置する専修学校における教育・運営活動等の状況について、自ら行う点検及び評価の項目並びにその実施体制等について検証し、問題点を把握の上目標を明確化し、必要な支援・改善を行うことにより、教育水準の向上と質の保証を図ることが重要である。また多くの外部評価を受けることにより学校評価の精度を高め、客観性を持った評価による改善を目指したい。特に卒業生、保護者、地域住民、企業等との相互理解と連携を確立し、学校の説明責任を果たしていくよう努めることにより学校の組織力を高め地域に支えられる学校づくりにも貢献したい。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか
(2)学校運営	2-4運営方針は定められているか 2-5事業計画は定められているか
(3)教育活動	3-10各学科の教育目標、育成人材像はその学科に対応する業界の
(4)学修成果	4-19就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が
(5)学生支援	5-23就職に関する体制は整備されているか
(6)教育環境	6-31施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
(7)学生の受入れ募集	7-34学生募集活動は適正に行われているか
(8)財務	8-38中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
(9)法令等の遵守	9-42法令、設置基準などの遵守と適正な運営がなされているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-46学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか
(11)国際交流	11-48グローバル人材の育成に向けた国際交流などの

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

自己点検自己評価については、「計画」「実践」「評価」の一連のサイクルを行うために、学校評価ガイドラインに設定した目標や、具体的な計画の実践状況について学校評価委員会を開催し懇談を通じての意見や要望を聴取する。聴取した内容は、学校運営に関する事項は、学内の学校長、副校長、教務部長、部署長の会議である「運営会議(定例会毎週1回)」にて運営の見直し並びに次年度事業計画修正への検討を行い12月には改善計画を含めた事業計画を策定する。一方教育活動については教員及び学科長で構成される学内組織である「教育改革委員会(定例会月1回開催)」にて検討し、1月には次年度カリキュラムの改定にむけての検討ならびに日々の授業運営の改善にを実施している。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成28年8月30日現在

名前	所属	任期	種別
佐藤 忠寿	医療法人社団 養生館 苫小牧日翔病院	2015.9月～ 2017.8月	卒業生
野 清美	動物科学科保護者	2015.9月～ 2017.8月	保護者
大場 真哉	帯広大谷高等学校	2015.9月～ 2017.8月	高等学校
早坂 貴敏	恵庭市市議会議員	2015.9月～ 2017.8月	近隣関係
奥山 恒夫	株式会社 恵庭リサーチ・ビジネスパーク	2015.9月～ 2017.8月	企業等委員
足立 晋	医療法人北農会 恵み野病院	2015.9月～ 2017.8月	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://www.hht.ac.jp/resources/pdf/abm00027340.pdf>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

自己点検、自己評価について教育課程編成委員会で報告を行い、学科だけではなく学校としての視点で意見を頂く。

(1)学校の概要、目標及び計画	(1)学校の概要、目標及び計画
(2)各学科等の教育	(2)各学科等の教育
(3)教職員	(3)教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	(4)キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	(5)様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	(6)学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	(7)学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	(8)学校の財務
(9)学校評価	(9)学校評価
(10)国際連携の状況	(10)国際連携の状況
(11)その他	(11)その他

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

HP <https://www.hht.ac.jp/disclose-information.html>

授業科目等の概要

(医療専門課程 義肢装具士学科) 平成28年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			数学	義肢装具士に必要な数学の基礎について理解する。	1前	30	2	○		
○			生物学	細胞・組織・遺伝・発生を学び、生物を系統的に理解する。	1前	30	2	○		
○			物理学	物理学の法則や原理を理解し、運動や力の法則を理解する。	1後	30	2	○		
○			美術	演習を通して義肢装具士として必要な美術的素養を身につける。	1後	30	1		○	
○			体育	障害における運動機能を体験・理解すると共に、体力増強と健全な身体の発達を図る。	1前	30	1			○
○			解剖学	人体の全身及び四肢の構造を学習し、義肢装具との関連を深め理解する。	1後	45	3	○		
○			生理学	生理学の概要を学び、理解する。	1後	30	2	○		
○			運動学	運動学の基礎を学び義肢・装具における臨床的意義についての理解を深める。	2前	45	3	○		
○			図学及び製図	義肢・装具を製作する上で必要な図面の作成や読み取りを学ぶ。	1前	30	1		○	
○			義肢装具材料学	義肢・装具を製作する上で必要な材料学の基礎を中心に学ぶ。	1後	30	2	○		
○			義肢装具材料力学	材料に発生する変形及び応力の解析について理解する。	1後	30	2	○		
○			義肢基本工作論	義肢の定義・分類・義肢の基本的な工作理論を学ぶ。使用目的・給付制度について学ぶ。	1後	30	1		○	
○			義肢基本工作技術	義肢の基本的な工作技術と工具・機械類の使用法を学ぶ。義手・義足の構成部品を学ぶ。	1後	90	3			○
○			装具基本工作論	装具の定義・分類・使用目的・装具の基本的な工作理論を学ぶ。金属の一般と特性・金属の熱処理とその特徴を学ぶ。	1前	30	1		○	
○			装具基本工作技術	装具の基本的な工作技術と工具・機械類の使用法を学ぶ。プラスチック(熱可塑性)の性質を学ぶ。	1前	90	3			○
○			装具学Ⅰ	体幹に関する知識を習得しながら、体幹装具製作における採型・採寸の基本的理論と方法を学ぶ。	1後	30	1		○	
○			装具実習Ⅰ	体幹装具採型・陽性モデル作成・モデル修正・製作加工・仮合わせ・仕上げ・装着方法を学ぶ。	1後	60	2			○
○			装具学Ⅱ	下肢の各神経疾患・筋組織・運動系経路の基本的知識と概要、装着部位・装着の目的・装着の原因疾患、装具の構成部品について学ぶ。	1後	30	1		○	
○			装具実習Ⅱ	素材の特性を理解しながら、下肢装具の採型・陽性モデル作成・モデル修正・製作加工・仮合わせ・仕上げ・装着方法を学ぶ。	1後	90	3			○
○			外国語	国際社会に対応し得る能力を養い、英会話の基礎を身につける。	1前	30	2		○	
○			外国語	国際社会に対応し得る能力を養い、英会話の基礎を身につける。	2前	30	2		○	
○			義肢学Ⅰ	下腿切断の解剖・機能解剖・運動学・疾患に関する知識の習得。義足の製作に必要な基本的理論と方法を学ぶ。適合について学ぶ。	2前	30	1		○	
○			義肢実習Ⅰ	下腿義足の基本的な工作法を学ぶ。下腿義足を中心とした基本的知識の習得、モデル被験者を通して医療職としての人間性を養う。	2前	90	3			○

○		義肢学Ⅱ	前腕切断の解剖・機能解剖・運動学・疾患に関する知識の習得。前腕義手の製作に必要な理論と方法を学ぶ。適合について学ぶ。	2 前	30	1		○	
○		義肢実習Ⅱ	前腕義手の基本的な工作法について学ぶ。前腕義手の基本的知識の習得。切断部位・使用目的による形式・体外力源動力義手を学ぶ。	2 前	45	1		○	
○		関係法規	医療職種全般の医療法規を理解し義肢装具士として必要な法令について学ぶ。	2 前	15	1	○		
○		心理学	患者を理解する基礎と人間についての一般的理解を深める。	1 後	30	1		○	
○		人間発達学	人間の成長段階における精神的、身体的特徴を学ぶ	2 前	30	1		○	
○		理学療法	理学療法を通し基本的・応用的動作能力及び社会的能力の回復を図る為の医療技術を学ぶ。	2 後	15	1	○		
○		作業療法	作業療法の概要を知り、基本的・応用的な日常動作に必要な作業能力を図るために必要な医療技術を学ぶ。	2 前	15	1	○		
○		義肢装具概論	義肢装具の歴史と現状、リハビリテーション、車椅子、座位保持装置等の基本的な知識、身体障害者福祉法との関連について学ぶ。	1 前	30	1		○	
○		リハビリテーション 医学	リハビリテーションを中心とした臨床的手技を学ぶ。	2 前	30	2	○		
○		情報科学	コンピュータの基礎知識（Word・Excel）を学び情報の伝達・処理・貯蔵について理解する。	1 前	45	3		○	
○		機能解剖Ⅰ	体幹の表面解剖・骨・関節・運動・筋・神経を学ぶ。	1 後	30	1		○	
○		機能解剖Ⅱ	下肢の表面解剖・骨・関節・運動・筋・血管・神経を学ぶ。	1 前	30	1		○	
○		機能解剖Ⅲ	上肢の表面解剖・骨・関節・運動・筋・血管・神経を学ぶ。	2 前	30	1		○	
○		機能解剖Ⅳ	運動調節機構、中枢神経系を学ぶ。	2 後	30	1		○	
○		病理学概論	基本的な病態生理を理解し病理学像を学ぶ。	2 前	30	2	○		
○		整形外科学	人体に対する整形外科的な診断と治療法を学び義肢装具の役割を知る。	3 後	45	3	○		
○		一般臨床医学	基礎疾病の診断方法及び観察検査の一般について学習し、実際の臨床応用に適応する知識と技能を修得する。	2 後	30	2	○		
○		公衆衛生学	集団の健康と疾病予防について学ぶ。	2 前	30	2	○		
○		福祉用具講座	身体障害者福祉法による福祉用具の必要性を理解し、義肢装具士との関わりや必要性を学ぶ。	3 前	30	1	○		
○		機構学	リンク機構を中心に学ぶ。	2 後	30	2	○		
○		制御工学	義肢・装具に必要な制御工学の基礎について学ぶ。	2 後	30	2	○		
○		義肢装具工学	義肢装具工学全体について体系的に理解し実際の演習を行う。	3 前	30	1		○	
○		装具学Ⅲ	骨折治療用の装具に必要な下肢の解剖・機能解剖・運動学・疾患に関する知識の習得をする。	2 後	30	1		○	
○		装具実習Ⅲ	骨折治療用の装具に必要な採型・採寸の基本的理論と方法、適合の理論と実際、生体力学的根拠に基づく製作理論を学ぶ。	2 後	45	1		○	
○		装具学Ⅳ	上肢の解剖・機能解剖・運動学・疾患、上肢の病態の生体力学的根拠に基づく製作理論、適合の理論と実際について学ぶ。	2 後	30	1		○	
○		装具実習Ⅳ	上肢装具の採型・採寸・製作・仮合わせ・制作方法の習得。臨床での対応方法について学ぶ。	2 後	45	1		○	
○		装具学Ⅴ	足部の解剖・機能解剖・運動学・疾患、足部の病態の生体力学的根拠に基づく製作理論、足部と靴の対応について学ぶ。	3 前	30	1		○	
○		装具実習Ⅴ	靴型装具の採型法、デザインとカッティングパターン、製靴法について学ぶ。	3 前	45	1		○	
○		装具実習Ⅵ	足底装具の採型法について学ぶ。足底疾患による症例別装具について学ぶ。足底装具製作法について学ぶ。	3 後	30	1		○	
○		装具実習Ⅶ	座位保持装置の意義・目的・総論、保持装置に用いる高機能材料の特性などを学ぶ。高度化・多様化に対する知識・技術を学ぶ。	3 前	45	1		○	
○		義肢学Ⅲ	大腿切断の解剖・機能解剖・運動学・疾患に関する知識の習得。大腿義足の製作の基本的理論と方法を学ぶ。適合について学ぶ。	2 後	30	1		○	
○		義肢実習Ⅲ	吸着式大腿義足（四辺形ソケット）の採型・製作・適合・仕上げを学ぶ。ギブスソケット・ベントニー式模擬義足の製作法を学ぶ。	3 前	90	3		○	
○		義肢学Ⅳ	大腿切断の病態の生体力学的根拠に基づくIRC製作理論について学ぶ。IRC大腿義足に必要な採型・採寸の基本的理論と方法を学ぶ。	3 前	30	1		○	
○		義肢実習Ⅳ	IRC式大腿義足の採型・修正・製作・適合を学ぶ。試歩行・アライメント調整・異常歩行の調整法について学ぶ。	3 後	60	2		○	
○		義肢学Ⅴ	上腕切断の解剖・機能解剖・運動学・疾患に関する知識の習得。上腕義手の製作・適合の基本的理論と方法を学ぶ。	3 前	15	1		○	
○		義肢実習Ⅴ	上腕義手の基本的な工作法について学ぶ。上腕義手の基本的知識・切断部位・使用目的による形式・体外力源動力義手について学ぶ。	3 前	45	1		○	

○		特殊義足	股関節離断の解剖・機能解剖・運動学疾患に関する知識の習得。股義足に必要な採型・採寸・適合の基本的理論と方法について学ぶ。	3 前	30	1		○
○		臨床実習Ⅰ	義肢装具士の行う基本的な業務について、実習を通して実践的な知識と技術を身に付ける。	2 前	160	2		○
○		臨床実習Ⅱ	義肢装具士の行う基本的な業務について、実習を通して実践的な知識と技術を身に付ける。	3 前	240	5		○
○		義肢装具研究 (卒業研究)	今までの学習成果の集大成として、個人またはグループでまとめを行う。	3 後	135	3		○
合計				62科目	2785(104)単位時間(単位)			